

大津企業景況調査報告書

(第83回)

平成30年10月～12月期 実績

平成31年1月～3月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成30年10月～12月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 163 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	1 6 社	8 社	5 0 . 0 %
卸 売 業	1 5 社	1 3 社	8 6 . 7 %
小 売 業	4 1 社	2 6 社	6 3 . 4 %
サービス業	6 2 社	3 3 社	5 3 . 2 %
建 設 業	2 9 社	1 5 社	5 1 . 7 %
合 計	1 6 3 社	9 5 社	5 8 . 3 %

3. 調査期間

調査対象期間は平成 30 年 10 月～12 月とし、調査時点は平成 30 年 11 月 15 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「採算(経常利益)の水準」、「取引の問い合わせ」の DI 指数は、過去比較でなく、水準を聞いたものである。

景況感は小幅悪化が続く。建設業以外は軒並み悪化

平成30年10月～12月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、今四半期の全体の業況判断DI（前年同期比）が前四半期と同じ▲5で小幅悪化が続いている。売上が伸び悩む中、原材料費の上昇や最低賃金の引上げによる人件費の上昇、運賃の高騰等を販売価格に転嫁が難しいこと等によるとみられる。業種別では、建設業が台風災害の復旧工事等で繁忙な一方、その災害で業務が遅延している業種もあり、上記理由もあって建設業以外の業種では軒並み悪化した。人員不足感は厳しい水準が続いている。

先行きの業況判断DIは、▲4と悪化が続くとみている。上記理由に加えて米中の貿易戦争や日米通商協議等の不透明要素があり、株価下落もあって企業は先行きを慎重にみている。業種別では、災害復旧工事等が続く建設業は改善を見込んでいるが、製造業は米中貿易摩擦等による悪化を見込んでおり、自然災害や株価下落による消費への影響を懸念する小売業、サービス業も悪化を見込んでいる。サービス業以外は厳しい人手不足が続くとみている。

□ 業況判断DI（前年同期比）は、小幅悪化が続く。建設業以外は軒並み悪化

「前年同期比でみた業況判断DI(全体）」（「好転」－「悪化」）は、前四半期と同じ▲5で小幅悪化が続いている。原材料費や人件費の上昇、運賃の高騰等を販売価格に転嫁が難しいこと等によるとみられる。業種別では、建設業が災害復旧工事等で繁忙だが、建設業以外の業種では軒並み悪化した。

□ 売上DI（前年同期比）は、前年比小幅減少。建設業が大幅増加、製造業、サービス業減少

「前年同期比でみた売上DI(全体）」（「増加」－「減少」）は、▲2と前年比3ポイント減少した。業種別では、建設業が台風災害の復旧工事等で大幅に増加し、災害復旧工事材料需要等で卸売業も増加したが、製造業、サービス業は減少に転じた。

□ 採算DI（前年同期比）は、さらに悪化。製造業以外はほとんど悪化

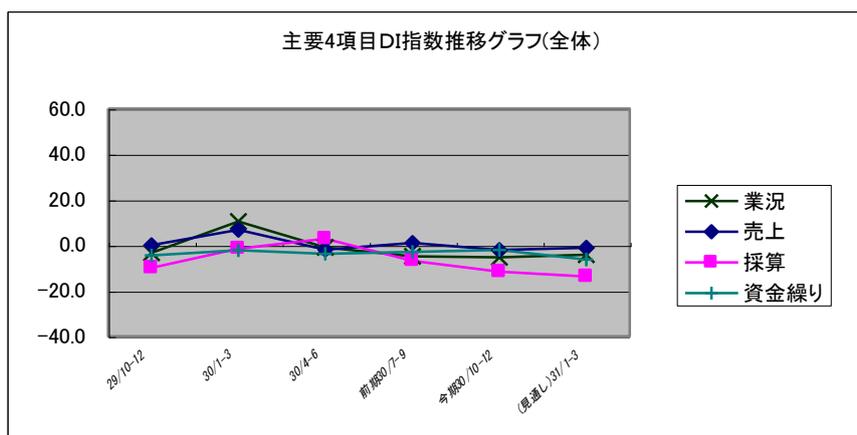
「前年同期比でみた採算（経常利益）DI(全体）」（「好転」－「悪化」）は、今四半期▲12と前四半期よりさらに悪化した。業種別では、製造業は前年並みであるが、繁忙な建設業も含め悪化した。原材料費の上昇や最低賃金の引き上げによる人件費の上昇、運賃の高騰等を販売価格に転嫁が難しいこと等によるとみられる。小売業は悪化幅が縮小した。

□ 資金繰りDI（3ヵ月前比）は、やや悪化、建設業は改善

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体）」（「好転」－「悪化」）は、今四半期▲2とやや悪化した。業種別では、災害の復旧工事等で繁忙である建設業は改善したが、卸売業、小売業では悪化した。災害で業務が遅延して採算が悪化したことも影響しているとみられる。

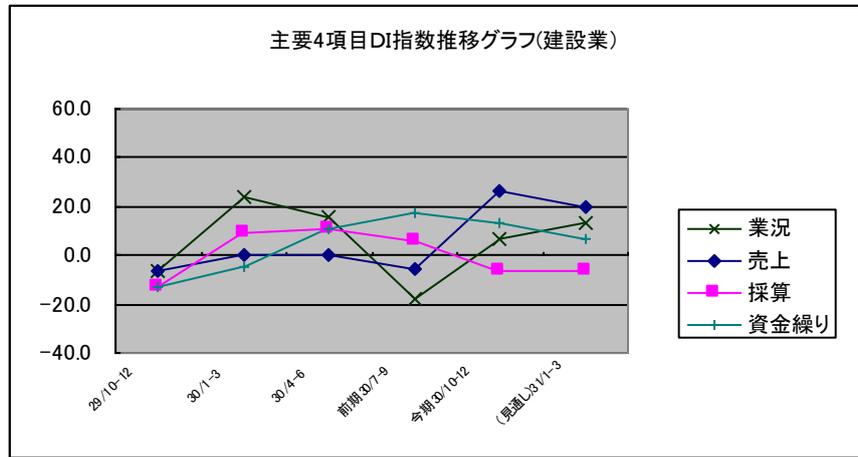
□ 従業員DI（前年同期比）は、人員不足が続く。製造業も含め人手不足状態

「前年同期比でみた従業員DI(全体）」（「不足」－「過剰」）は、今期+26と厳しい人手不足が続いている。業種別にみると、前四半期に過不足なしであった製造業も含め、全業種で人手不足状態になっている。どの業種でもロボットなど省力設備の導入や労働時間短縮による働き方改革、待遇改善等が課題になっている。



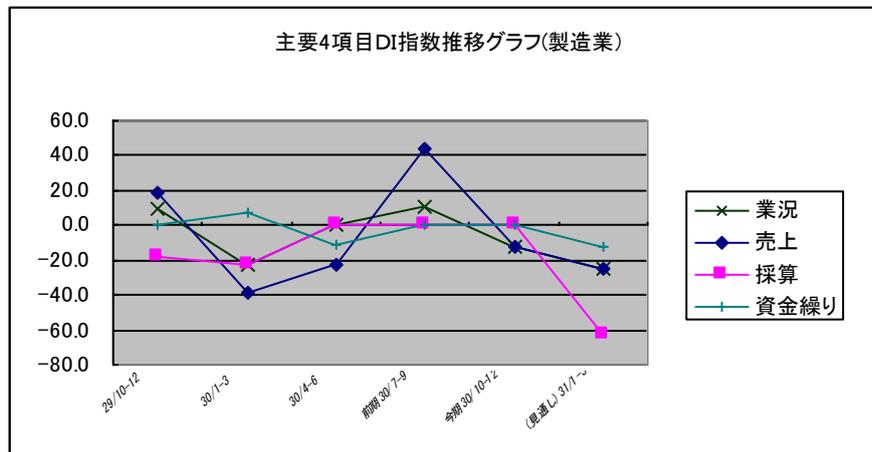
建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲18 から今四半期は+7 と大幅に改善した。台風災害の復旧工事等の増加が原因とみられる。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲6 から今四半期は+27 と大幅に増加し、「採算水準」も前四半期の+41 から今四半期+60 に良化したためとみられる。「従業員」は+29 から+33 と厳しい人手不足状態が続いている。



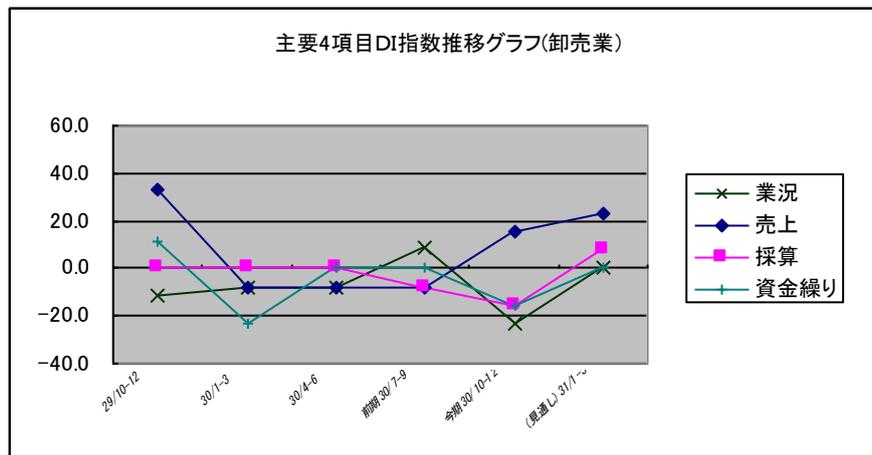
製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期+11 から今四半期は▲13 に悪化した。個別指標をみると、「採算」は前年と変わらない中で「売上」は前四半期の+44 から今四半期▲13 と大幅に減少したためとみられる。「従業員」は前四半期の過不足なし±0 から今四半期は+38 と、また厳しい人手不足になった。



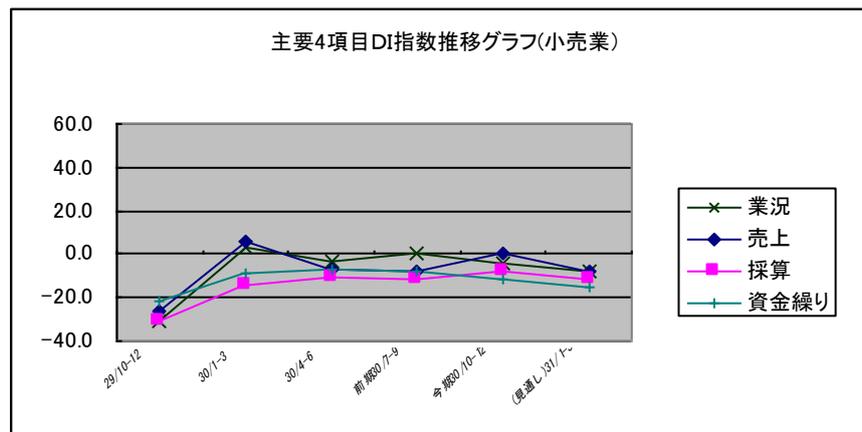
卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の+8 から今四半期は▲23 と悪化した。個別指標をみると、「売上」が災害復旧工事材料需要等で前四半期の▲8 から今四半期+15 と増加したものの、仕入価格の上昇を販売価格に転嫁が難しいこと等で「採算」が前四半期の▲8 から今四半期は▲15 と悪化したことによるとみられる。「従業員」は、人員不足感がやや緩和した。



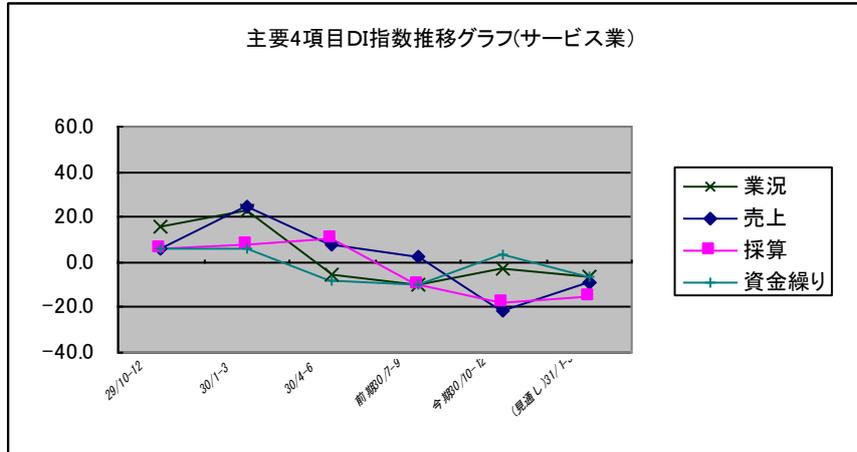
小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の±0 から今四半期は▲4 と小幅悪化した。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲8 から今四半期は±0 と改善したものの、「採算」が▲12 から▲8 と悪化が続いているためとみられる。「従業員」は+32 から+31 と厳しい人手不足が続いている。



サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲10 から今四半期は▲3 と悪化幅が縮小した。個別指標をみると「売上」は前四半期+3 から今四半期▲21 と減少し、「採算水準」は+5 から+9 へやや良化した。「従業員」は+31 から+21 になり人て員不足感はやや緩和した。



来四半期(3ヵ月後)の「業況」DIは、今四半期の▲5から▲4へと悪化が続くとみている。個別指標をみると、「売上」は▲2から▲1で前年比やや減少が続く、「採算」が▲12から▲14へ悪化すると見込んでいる。「従業員」は+26から+21へ人員不足感はやや緩和するとみている。

業種別では、災害復旧工事等が続く建設業はさらに改善を見込んでいるが、製造業は売上、採算の悪化を見込んでおり、自然災害や株価下落による消費への影響を懸念する小売業、サービス業も売上、採算の悪化を見込んでいる。サービス業以外は厳しい人手不足が続くとみている。

景気は緩やかな拡大基調にあるといわれてきたが、以前から売上が伸び悩む中での原材料費の上昇や最低賃金の引上げによる人件費の上昇、運賃の高騰等を販売価格に転嫁が難しいことがあり、ここへきて米中の貿易戦争や日米通商協議等の不透明要素があり、世界経済の変調を予感する株価下落等の懸念材料が加わり、企業は先行きを慎重にみている。

3ヵ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は32%で、3ヵ月前より▲1ポイント減少した。業種別にみると、製造業が最も高く38%、サービス業が36%、建設業が33%、卸売業が31%、小売業が23%である。

投資する企業の投資内容の割合は、「設備更新」が35%で最も多く、「生産力増加」が24%、「合理化・省力化」が18%である。うち製造業では50%が「合理化・省力化投資」で人手不足を補完する方針とみられる。建設業と卸売業では「設備更新」が各々50%である。

投資方針は、「計画通り」が60%で、「景気により見直す」が30%となっている。「設備更新」と「合理化・省力化」を合わせて53%あることから、景気に関係せずに計画通り投資しなければならないためとみられる。

田中マネジメント事務所
MBA・中小企業診断士 田中清行

(今の経済情勢に対する意見)

以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・最低賃金が上がってベテランさんと新入パートさんの差がなくなりました。人件費が増えてとても困っています。(製造業)
- ・年齢の若い従業員の離職理由を聞いて、「情報」に対しての感性が鈍いなど思う事が沢山ある。同じ様にお客様も情報によって思い込んでいる人が多い。ストライクゾーンの商品が、重要だなと思います。(小売業)
- ・新しく若い世代の従業員が1名ほしいが、その人件費等費用をまかなえない。10%のあと売上げ増強が望まれますが、店の改革や営業方針の刷新がもう一步進めて、この危機を乗り越えたい。銀行返済(借入残金)が減るH33年までの努力。いつもお世話になります。何とかもう少し頑張っけて乗り切りたいものです。よろしくお願い申し上げます。(小売業)
- ・7月・8月・9月の大雨・台風の風水害で多くの業務が遅延している。その結果資金繰りが苦しくなっている。(サービス業)
- ・時代に即応したテナントの入れ替えを考えていかなければと、入居時の審査を厳密にしなければと思う。(サービス業)
- ・消費税(10%)への対応に不安があります。(サービス業)
- ・台風被害の工事時受注が200件を超える。石油高で瓦等すべての部材が価格が上がる。来年春まで注文が増加、仕事量は去年の倍のペース。(建設業)

以 上

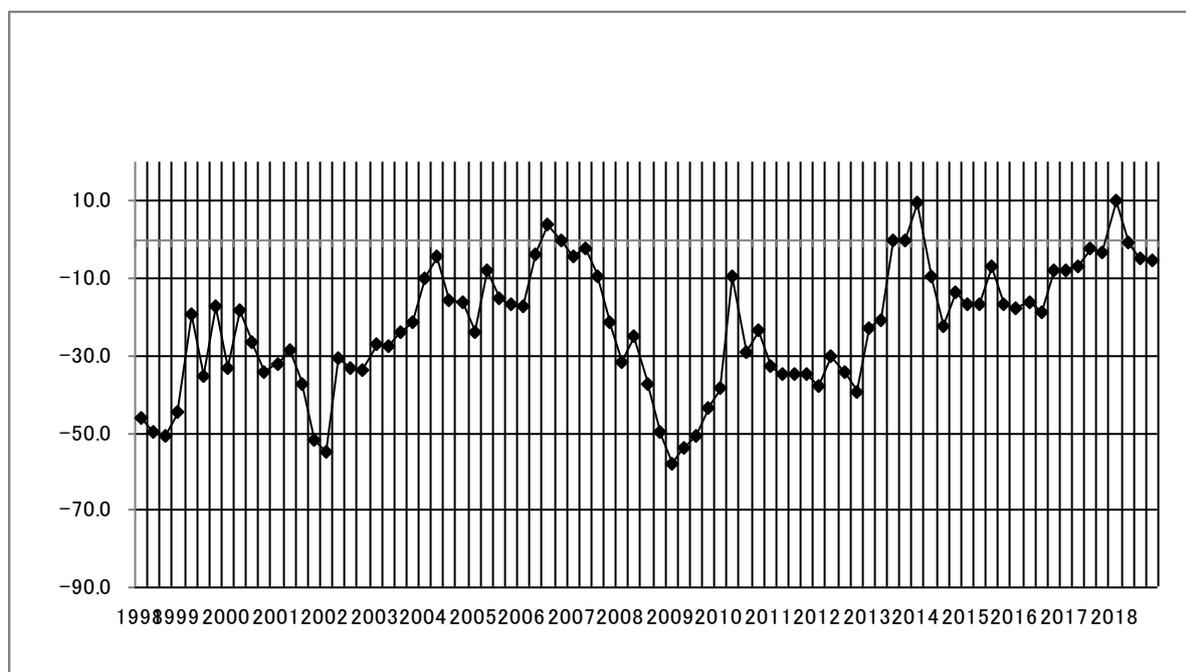
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し
全 体	▲5.3	▲4.2	▲2.1	▲1.1	▲11.6	▲13.7
建 設 業	6.7	13.3	26.7	20.0	▲6.7	▲6.7
製 造 業	▲12.5	▲25.0	▲12.5	▲25.0	0.0	▲62.5
卸 売 業	▲23.1	0.0	15.4	23.1	▲15.4	7.7
小 売 業	▲3.8	▲7.7	0.0	▲7.7	▲7.7	▲11.5
サービス業	▲3.0	▲6.1	▲21.2	▲9.1	▲18.2	▲15.2
	前年同期との比較		前年同期との比較		前年同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し
全 体	22.1	14.7	▲4.2	▲12.6	26.3	21.1
建 設 業	60.0	46.7	33.3	13.3	33.3	33.3
製 造 業	50.0	50.0	▲12.5	▲12.5	37.5	37.5
卸 売 業	15.4	0.0	▲7.7	▲23.1	15.4	15.4
小 売 業	11.5	▲7.7	▲19.2	▲23.1	30.8	26.9
サービス業	9.1	15.2	▲6.1	▲12.1	21.2	9.1
	今期水準と来期見通し		今期水準と来期見通し		前年同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し
全体	▲2.1	▲6.3	▲3.2	0.0	▲1.1	1.1
建設業	13.3	6.7	0.0	0.0	6.7	6.7
製造業	0.0	▲12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
卸売業	▲15.4	0.0	0.0	15.4	0.0	7.7
小売業	▲11.5	▲15.4	▲15.4	▲11.5	▲11.5	▲7.7
サービス業	3.0	▲6.1	3.0	3.0	3.0	3.0
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>